



ユニプレス株式会社

証券コード: 5949

2019年11月



UNIPRES CORPORATION



1. 会社概要

2. ユニプレスの強みと成長戦略

3. 中期経営戦略

4. 株主還元

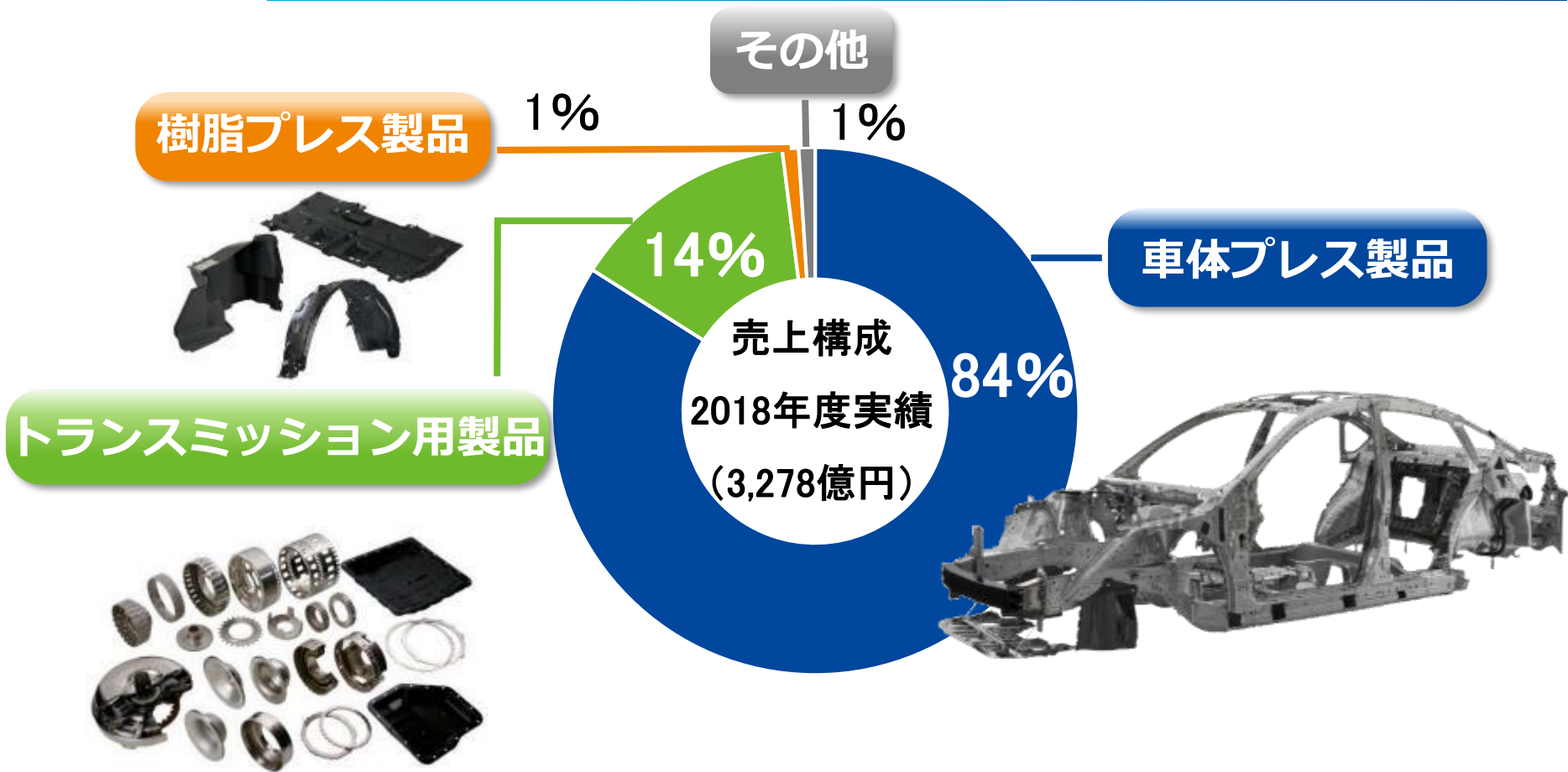


初めまして！ユニプレスです。

1. 会社概要



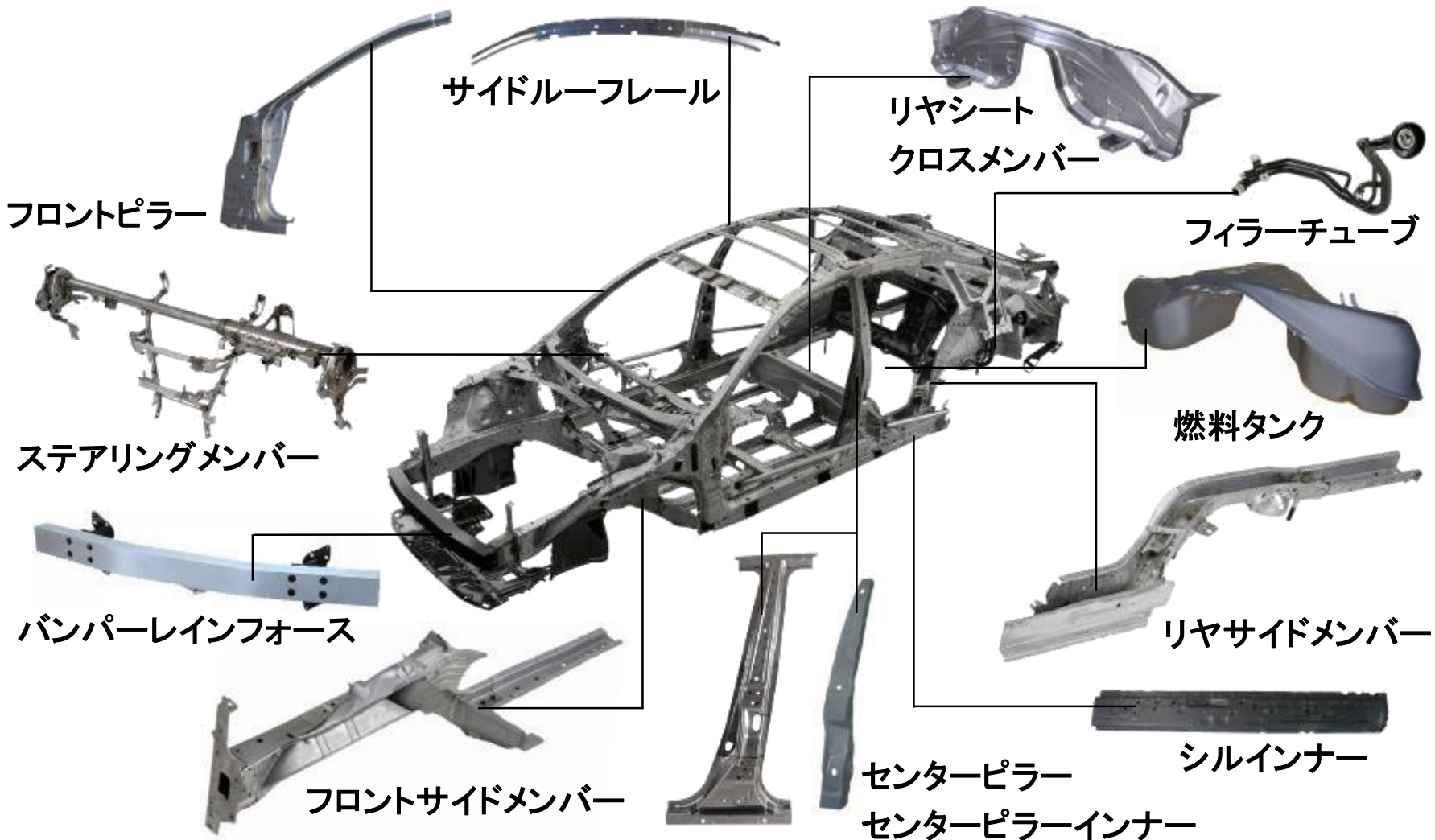
当社の製品とは



- ・車体プレス製品、トランスミッション用製品、樹脂プレス製品を生産
- ・売上構成比は、車体プレス製品が84%を占める



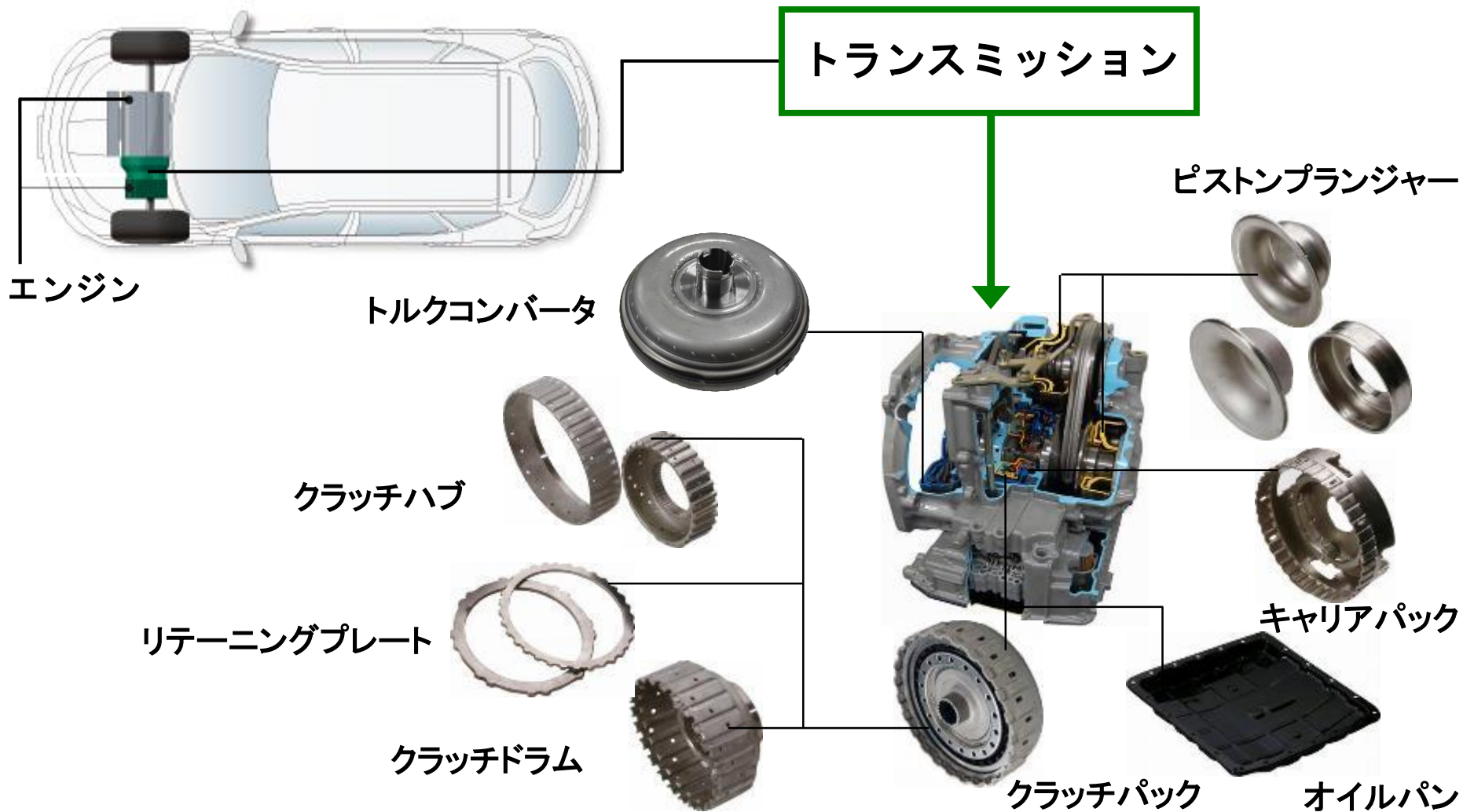
車体プレス製品



衝突安全性や燃費向上のための軽量化を支える重要な骨格部品等を生産



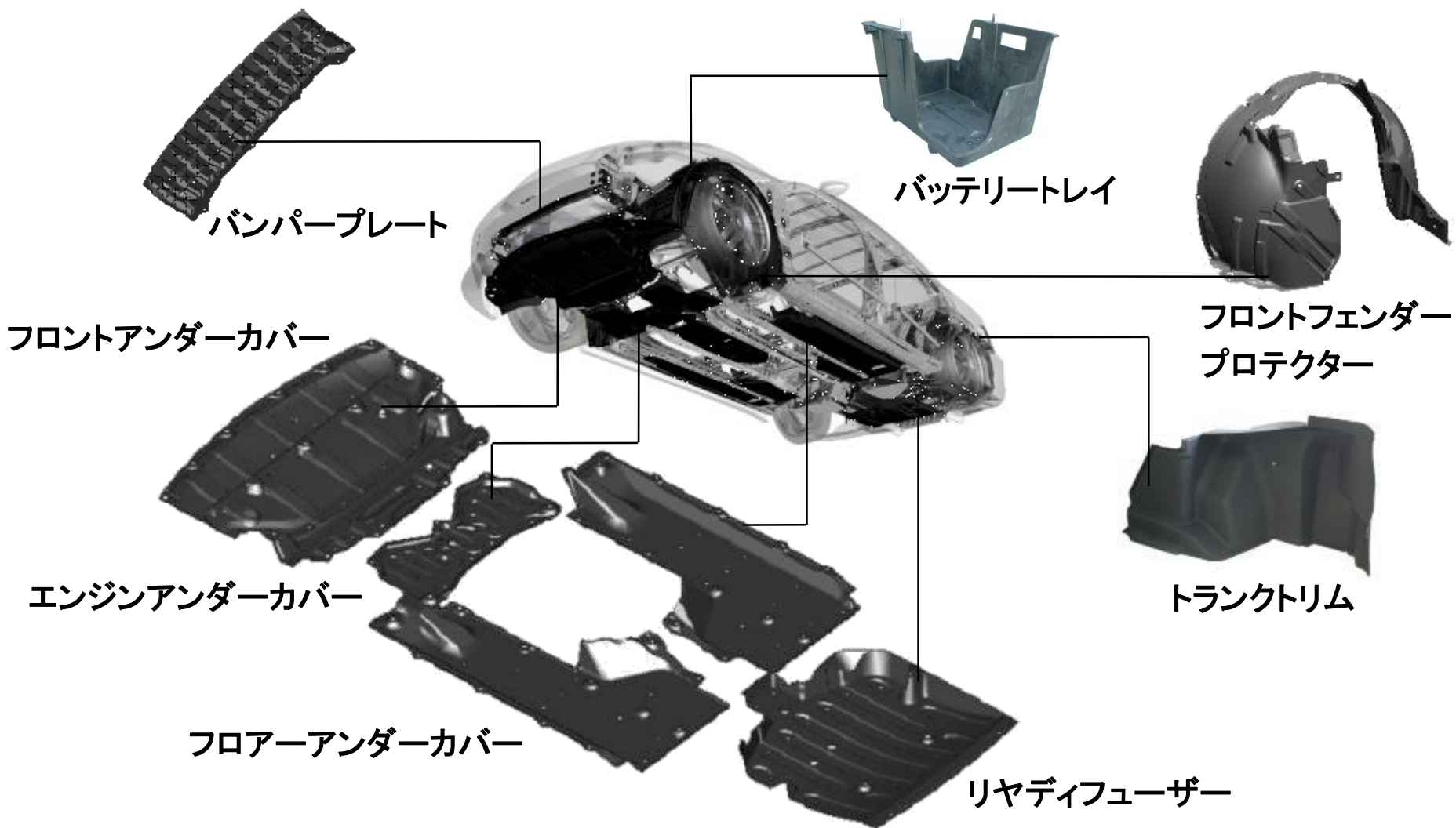
トランスミッション用プレス製品



精密さと強度を求められるトランスミッション用部品を生産



樹脂プレス製品



独自のプレス工法で軽量、低コストな樹脂部品を生産



当社商品の搭載車種例

NISSAN

デイズ



ノート



MAZDA

MAZDA 6



MAZDA 3



HONDA

フィット



フリード



セレナ

リーフ



TOYOTA

RAV4



レクサスLS



N-BOX



SUZUKI

ラパン



エクリプスクロス



デリカD:5



SUBARU

インプレッサ





グローバル拠点一覧

ユニプレスヨーロッパ
ユニプレスイギリス

ユーエムコーポレーション

ユニプレスタイ

ユニプレスインド

ユニプレスインドネシア

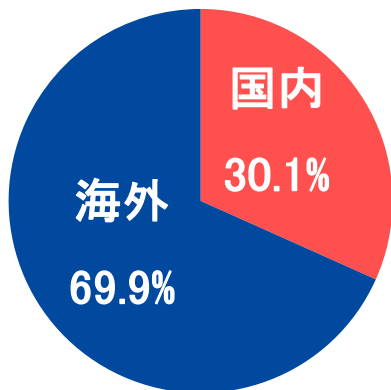
ユニプレス(中国)
ユニプレス広州
ユニプレス鄭州
ユニプレス精密広州
ユニプレス東昇大連
東風ユニプレスホットスタンプ

ユニプレスノースアメリカ
ユニプレスアメリカ
ユニプレス
サウスイーストアメリカ
ユニプレスアラバマ

ユニプレスメキシコ

マニュエットオート
モーティブブラジル

【売上比率(2018年度)】

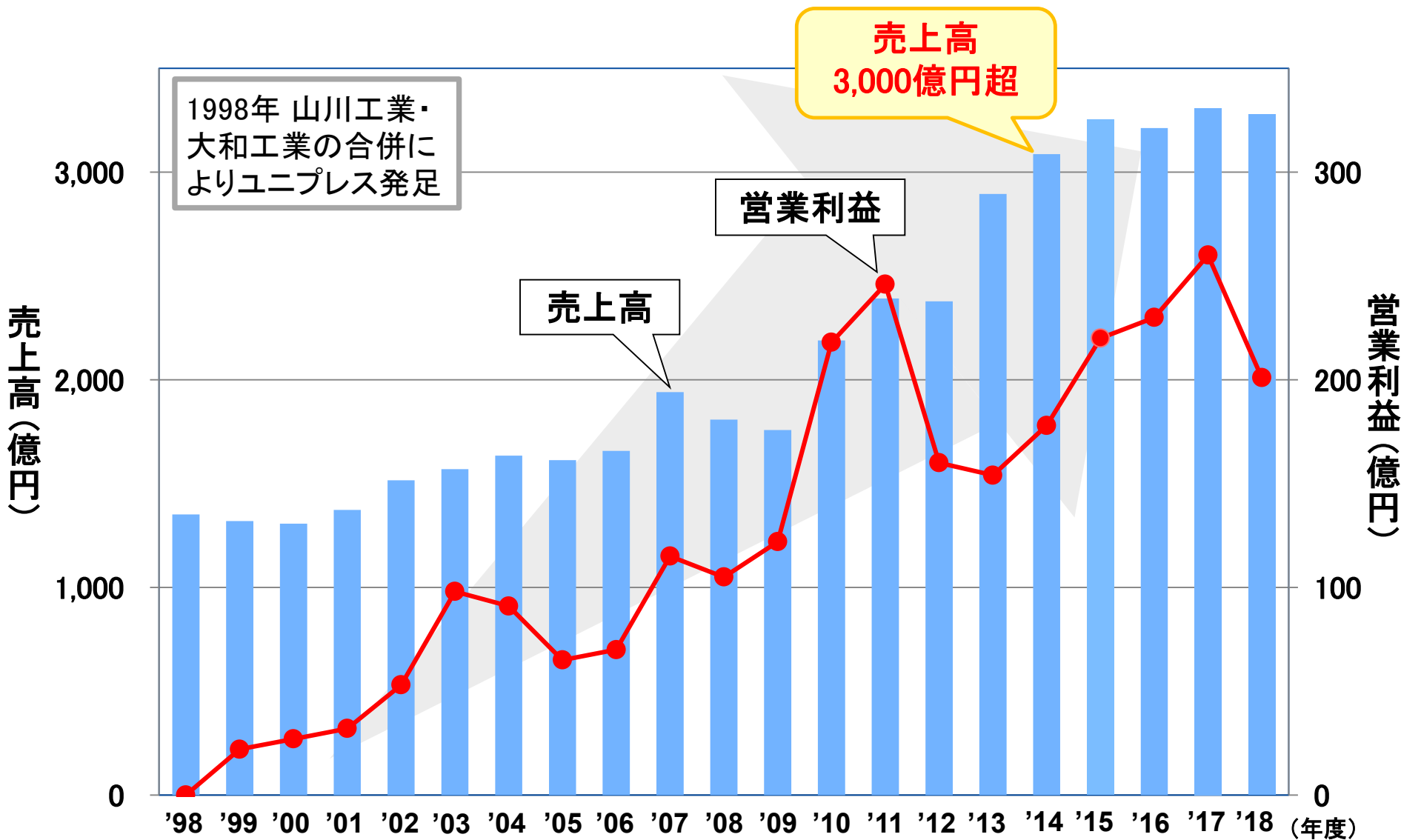


本社
ユニプレス技術研究所
相模事業所
富士事業所
栃木工場(真岡)
栃木工場(小山)

ユニプレス九州
工機工場
富士工場(富士)
富士工場(富士宮)
ユニプレス精密
ユニプレスモールド



連結収益の推移





業界内の位置づけ

<同業の上場会社との比較>

【各社開示資料より】

	ヨロズ	東プレ	フタバ産業	ジーテクト	プレス工業	エフテック	エイチワン	ユニプレス
売上高			1位	3位				2位
営業利益		2位		3位				1位
経常利益		1位		3位				2位
当期純利益		1位		3位				2位
時価総額		1位		3位				2位
資本金			1位		3位			2位
従業員数			1位	3位				2位

(2019年3月31日現在)



グローバルNo.1を目指す

2. ユニプレスの強みと成長戦略

1

電動化（EV化）対応

2

ルノー・日産・三菱連合への対応

3

新規拡販の推進



1) 電動化 (EV化) 対応

自動車産業は

『100年に一度の大変革期』を迎えている

Connected
つながる

Autonomous
自動運転

Sharing
シェアリング

Electricity
電動化

当社に大きく影響するのは電動化(EV化)

EV転換を促進する各国の動向

	アメリカ	カナダ	EU	中国	インド
ZEV規制	✓ ※	✓ ※		✓	
インセンティブサポート	✓	✓	✓	✓	✓
目標設定	✓ ※	✓	✓	✓	✓
補助金政策		✓		✓	

※州/県/地方でのみ実行されます。

出典:IEA「Global EV Outlook 2019」

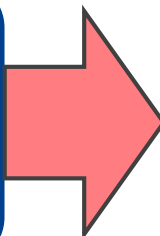


EV化の進展による当社への影響

EV化が進展すると…

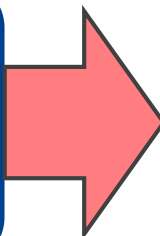
当社への影響

航続距離を伸ばすため
更なる車体の軽量化が
求められる



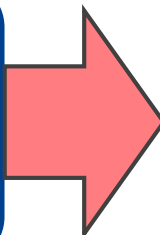
強みである軽量化技術
(ハイテン・ホットスタンプ)の
採用部位拡大

エンジン(内燃機関)が
不要になる



精密プレス技術を活かした
EV部品の開発

車載用電池搭載用
バッテリーケースの
需要が増加する



販売台数EV車世界一※の
「日産リーフ」バッテリーケース
生産ノウハウを活かせる

※2019年3月現在



車体部品軽量化技術開発の取り組み

～16年度	17年度	18年度	19年度～
■冷間プレス ※Mpa(メガパスカル)・Gpa(ギガパスカル):引っ張り強度			
超ハイテン材(1.2GPa) 難成形技術・ 高成形性980MPa材 部品の適用拡大	更なる超ハイテン材 (1.5GPa)の成形技術(量産化)		
■ホットスタンプ			
深絞り技術・ 生産性向上	原価低減技術		
■アルミニウムの適用			
車体骨格部品の成形技術と接合技術			
■CFRPの適用 ※CFRP:炭素繊維と樹脂との複合材料 (炭素繊維強化プラスチック)			
基礎的な成形技術			

ハイテン材 (高張力鋼板)

高強度な鋼板

メリット

硬く薄くできる

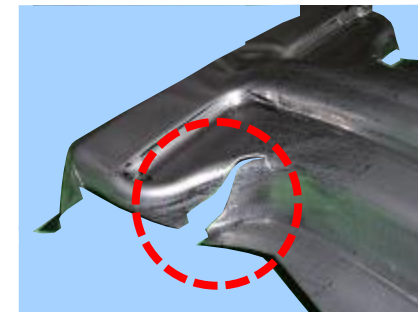
車両の軽量化

燃費向上

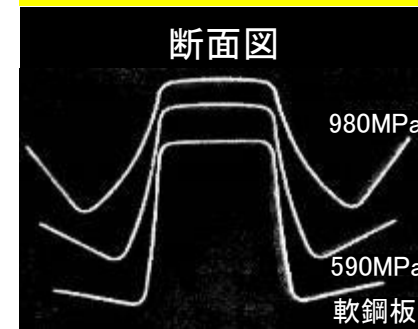
デメリット

成形加工が難しい

高度な技術が必要



割れが発生しやすい



スプリングバック

当社はハイテン材製品の開発～試作～量産が強み

高強度と軽量化の両立を実現



大型トランスファープレスの導入状況

栃木工場
3000トントランスファープレス



ユニプレスイギリス

3000トン TRF
3000トン TRF
2500トン TRF

栃木工場

3000トン TRF
2500トン TRF

ユニプレスアメリカ

3000トン TRF
2500トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

ユニプレス鄭州

3000トン TRF

ユニプレス九州

3000トン TRF
3000トン TRF
2500トン TRF

ユニプレスアラバマ

3000トン TRF

ユニプレスインド

2000トン TRF

ユニプレス サウスイーストアメリカ

3500トン TRF
2500トン TRF

ユニプレス広州

3000トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

ユニプレスメキシコ

3000トン TRF
2500トン TRF
2500トン TRF
2000トン TRF

マニュエットオート モーティブブラジル

2000トン TRF

TRF: トランスファープレス

・ハイテン部品を量産できる大型トランスファープレス(2000~3500トン)を
全世界に26台導入済み

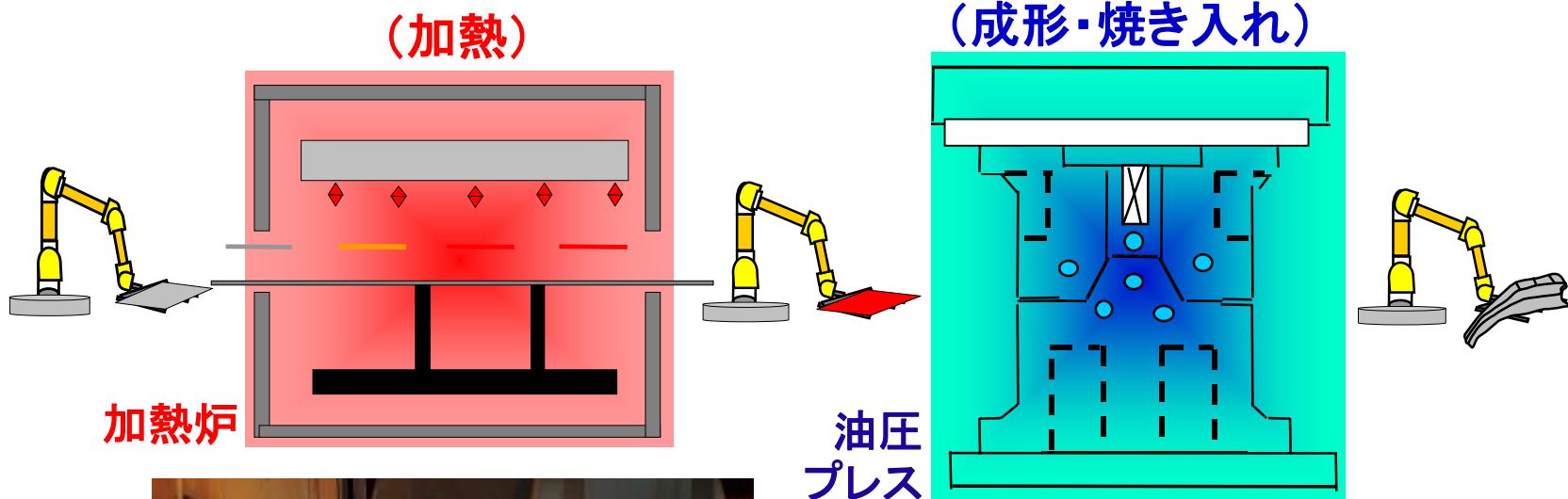


ホットスタンプ工法

ホットスタンプ工法

鋼板を加熱し、プレス成形と同時に急速冷却することで
焼き入れを行い、1.5GPa以上の高強度製品の加工を実現

(材料)



ホットスタンプライン



ホットスタンプ(導入計画)

新車受注にあわせて更に追加導入を決定

ユーエム
コーポレーション
■1ライン
■2021年度 稼働予定

ユニプレスイギリス
■2ライン(新鋭1・既存1)
■2020年度 稼働予定

ユニプレスアラバマ
■1ライン
■2020年度 稼働予定

ユニプレス九州
■1ライン
■2019年度 稼働予定

栃木工場
■3ライン(新鋭1・既存2)
■2020年度 稼働予定

東風ユニプレス
ホットスタンプ(鄭州)
■1ライン
■2020年度 稼働予定

東風ユニプレス
ホットスタンプ(広州)
■2ライン
■2019年5月稼働済
■2021年度稼働予定

ユニプレスメキシコ
■1ライン
■2019年度 稼働予定

【稼働予定時期】
 : 2019年度
 : 2020年度
 : 2021年度



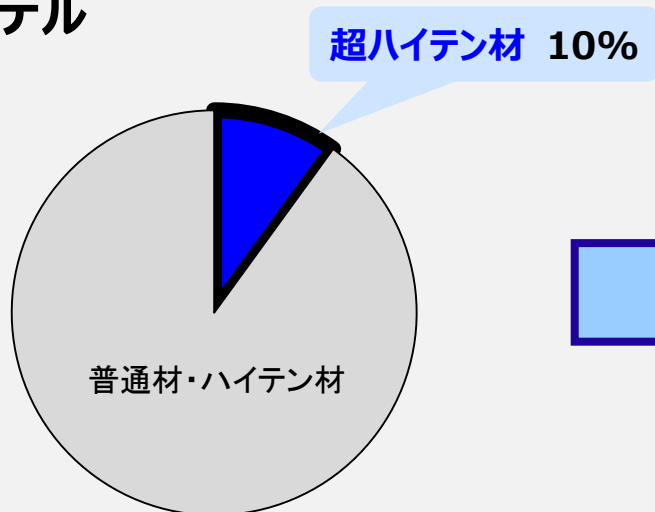
超ハイテン材、ホットスタンプ材の使用率拡大

- ・グローバルに衝突安全規制・評価が厳しくなっている
- ・航続距離を伸ばすため更なる車体の軽量化が求められる

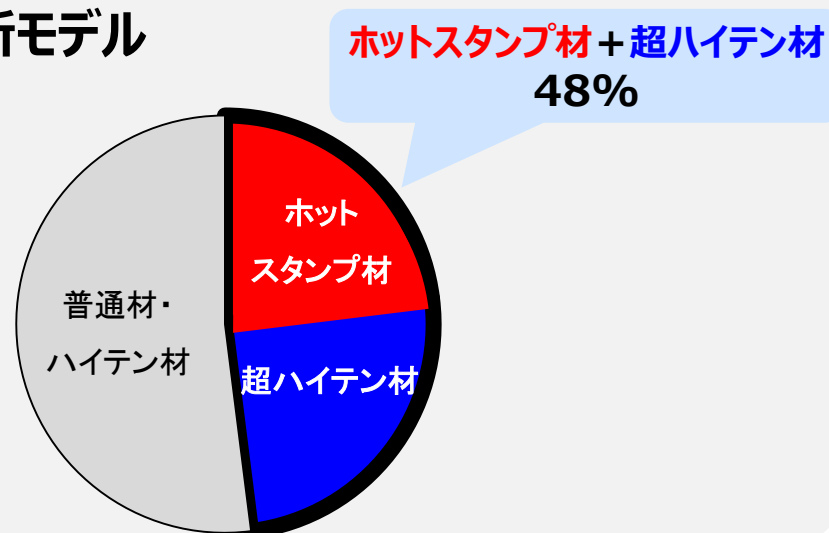
超ハイテン材、ホットスタンプ材の使用比率が
年々高まっている

当社受注の自動車骨格部品の高強度材使用率(重量比)

旧モデル



新モデル





樹脂事業における電動化の影響

電動化の進展

車体の更なる軽量化

樹脂製バッテリーケース(上蓋) の開発

スチール製→樹脂製
軽量化△70%



樹脂製バッテリーケース(上蓋)

空力性能向上

EV車、HEV車では、航続距離を延ばすため、空力性能の向上が求められる

アンダーカバー類の大型化や採用拡大が見込まれる

大型製品の低圧成形が可能な
当社にとってオポチュニティ

「日産リーフ」
樹脂製アンダーカバー



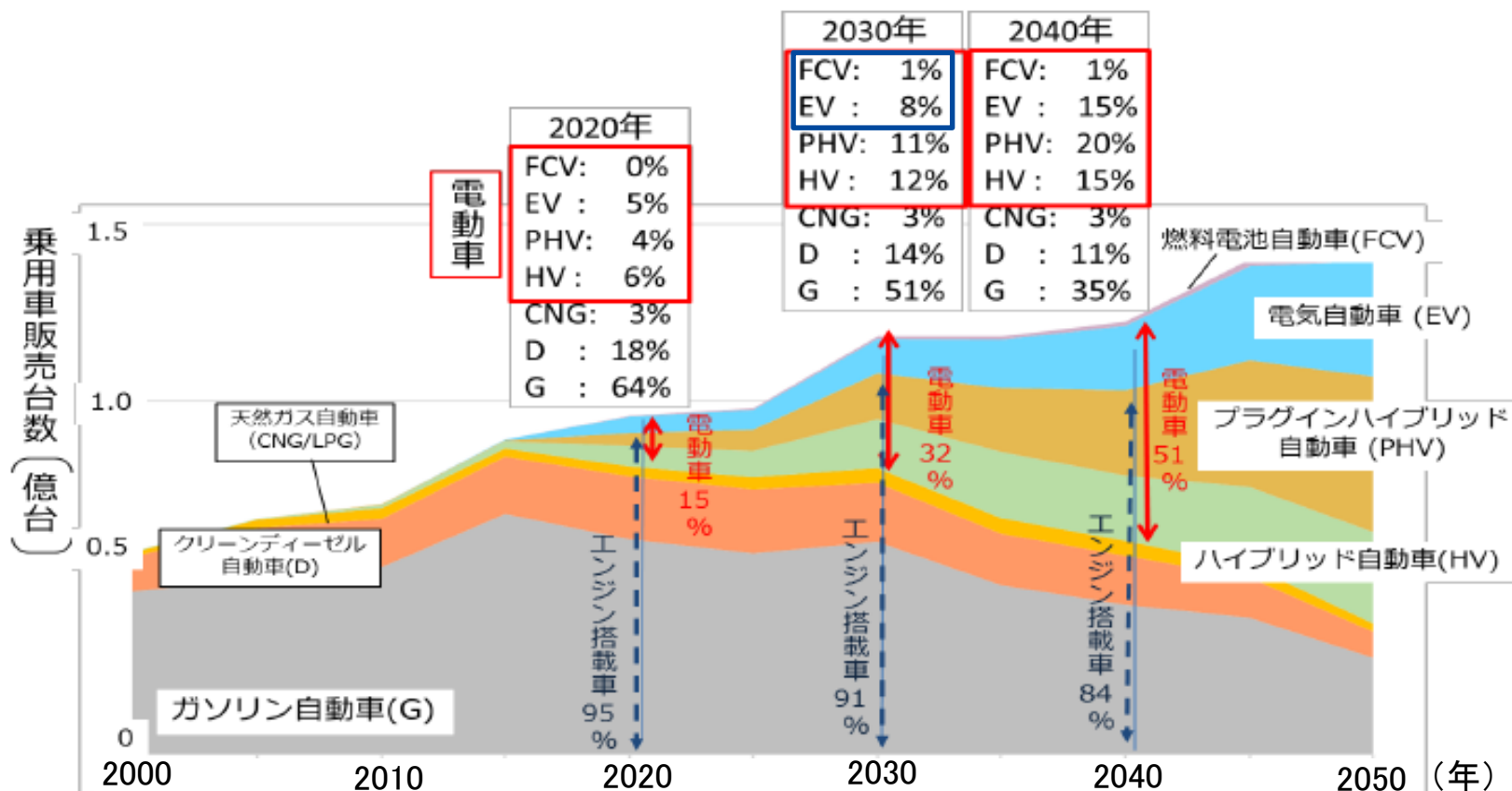


トランスミッション部品事業 技術開発の方向性

■ 電気自動車・燃料電池自動車の比率：2030年で9% (IEA予測)

・エンジン搭載車の生産はまだ伸びるため、トランスミッション部品の拡販は継続

・2030年以降の電気自動車比率の拡大に備え、技術開発を推進



経済産業省「自動車新時代戦略会議(第1回)資料」より抜粋 (出所) IEA「ETP(Energy Technology Perspectives) 2017」に基づき作成



2) ルノー・日産・三菱連合への対応



共通プラットフォームについて

プラットフォームとは・・・フレームやサスペンション、ステアリング、パワートレインといった車を構成する基本部品の一連の組み合わせのこと



日産「エクストレイル」



日産「ローグ」



ルノー「カジャー」



ルノー「コレオス」

例えば、上記4車種は、同じプラットフォームを使用

ルノー・日産・三菱は、共通プラットフォームの使用を増やし、2022年までに4つのプラットフォームで900万台以上をカバー
(ルノー・日産・三菱 新6か年計画「アライアンス2022」より)



共通プラットフォーム車向けの部品の受注は非常に重要



・ 日産の全乗用車について、今後も確実な受注をグローバルで狙う



日産“新型デイズ”受注状況

2019年3月に発売された日産・三菱共通プラットフォームの
軽自動車の車体骨格部品を新規受注。
加えて、樹脂部品、トランスミッション用部品を継続受注。

【受注部品】

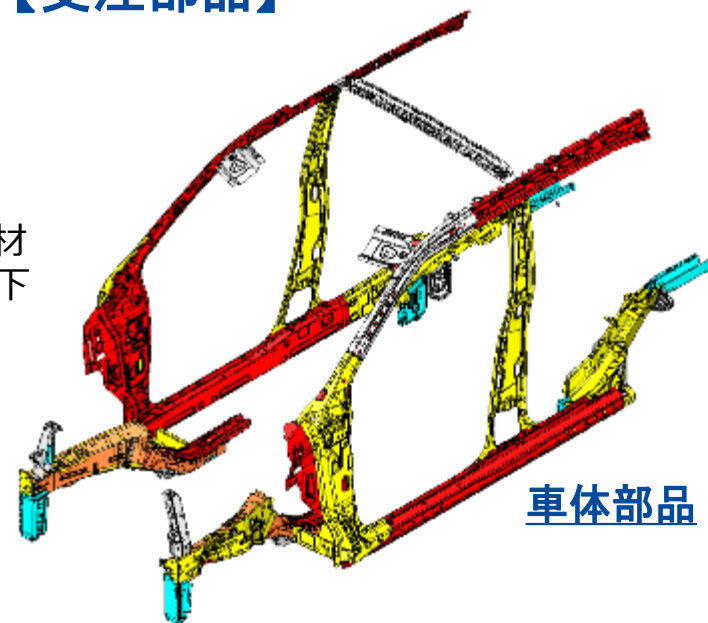
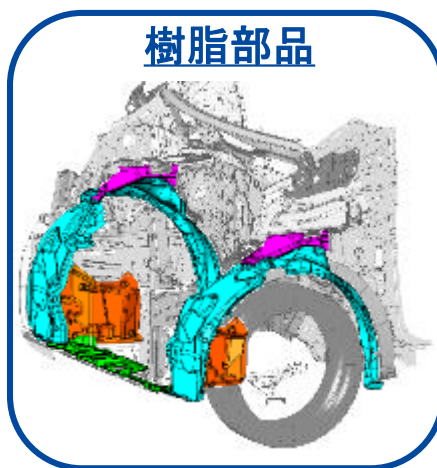
- 980MPa
- 780MPa
- 590MPa
- 440MPa
- 340~370材
- 270MPa以下



日産「新型デイズ」



三菱「新型eKワゴン」





ルノー車の受注状況／拡販戦略

イギリス

カジャー



フランス

メガーヌ



クリオ



セニック



ゾエ



タリスマン



中国(東風ルノー)

カジャー



コレオス



インド

ロジュー



キャプチャー



ダスター



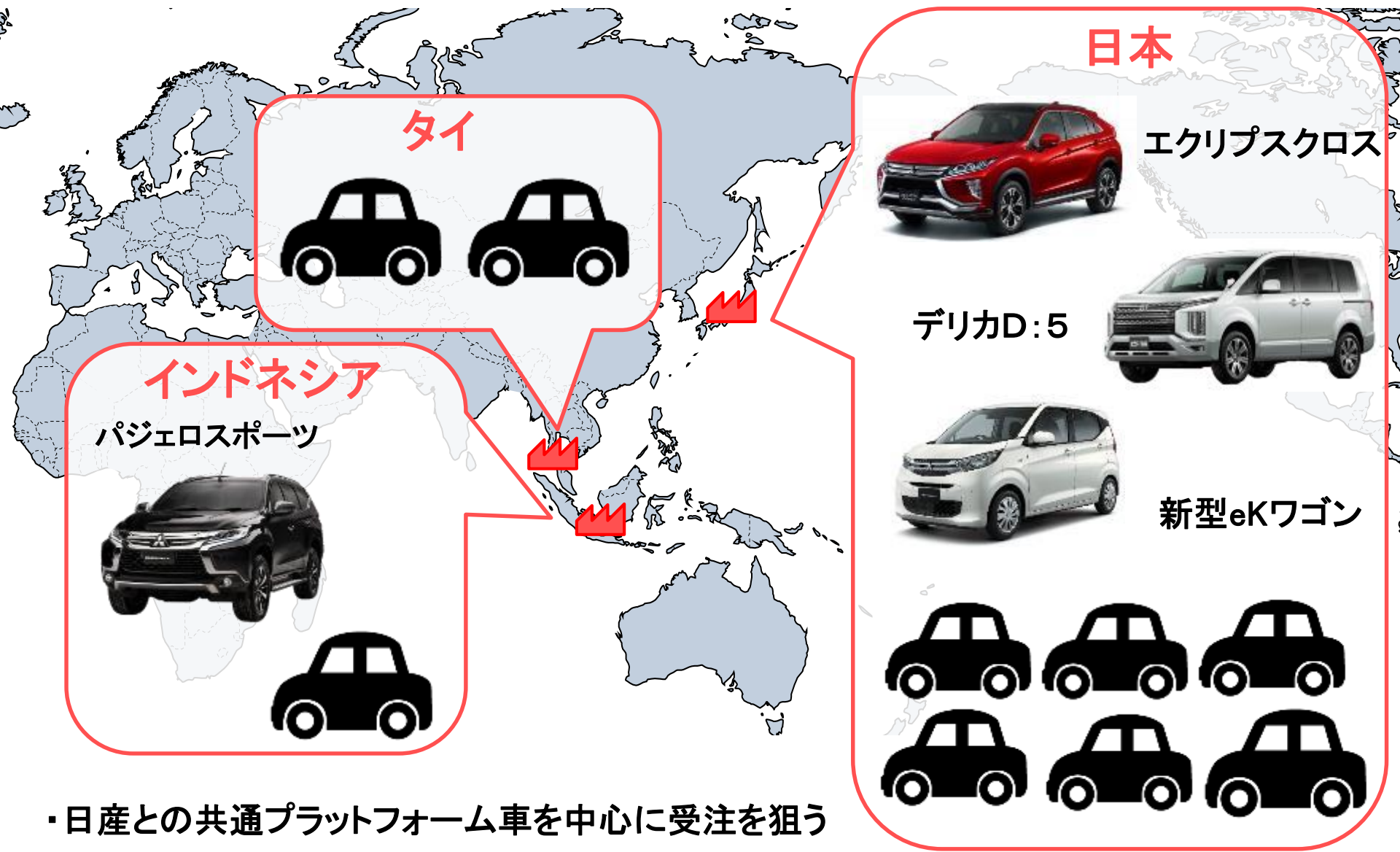
トライバー



- ・ 今後も日産との共通プラットフォーム車を
中心に受注を狙う



三菱車の受注状況／拡販戦略



・日産との共通プラットフォーム車を中心に受注を狙う

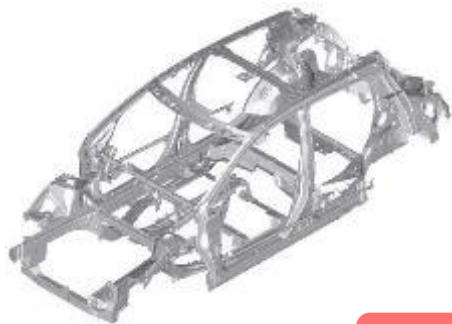


EV車の受注状況

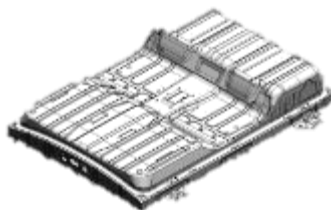
航続距離を伸ばすため更なる車体の軽量化が求められ、
強みである軽量化技術の採用部位拡大が見込まれる

<日産新型リーフ受注状況>

車体骨格部品ほぼ全量



バッテリーケース



樹脂アンダーカバー



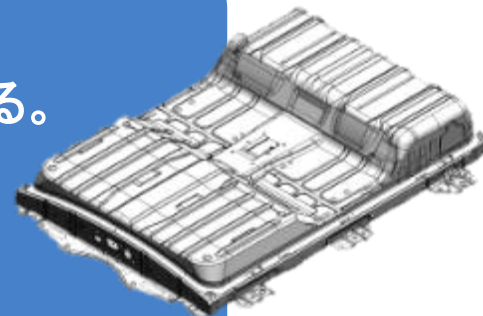


バッテリーケースの売り上げ見通し

- ・日産は2022年度までに電動車（EV、P-HEV、e-POWER）の販売をグローバル全販売台数の30%を目指す。
- ・ルノー・日産・三菱アライアンスでも電動車の拡大が見込まれる。

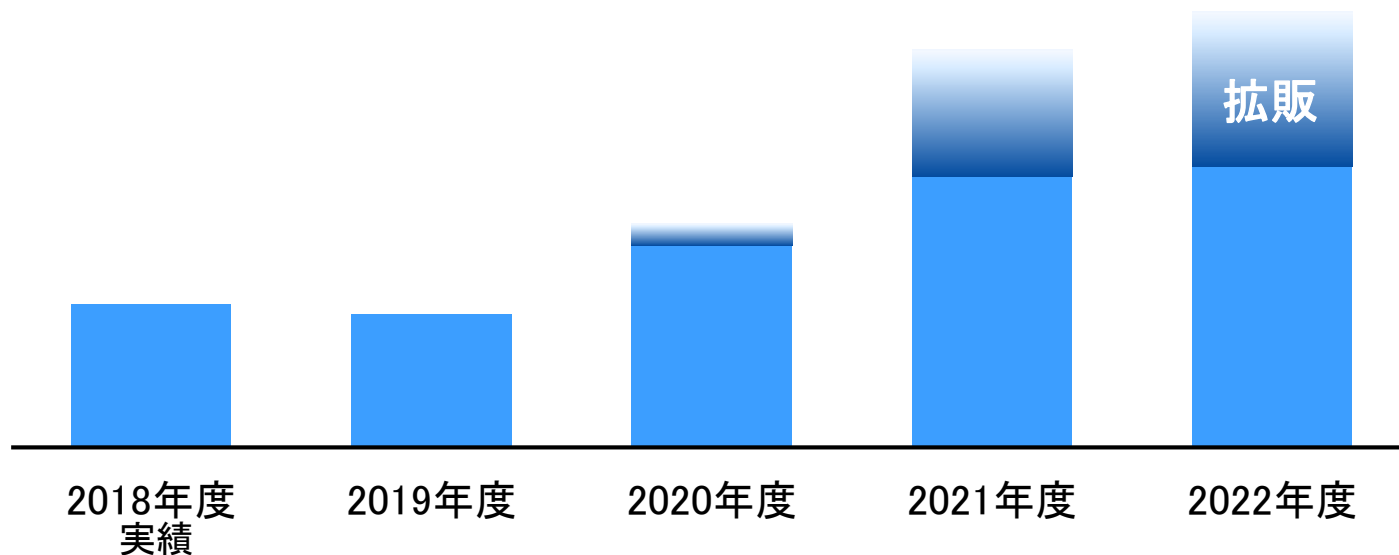


リーフのバッテリーケース独占生産の実績を活かし、
今後開発される電動車のバッテリーケース受注を狙う



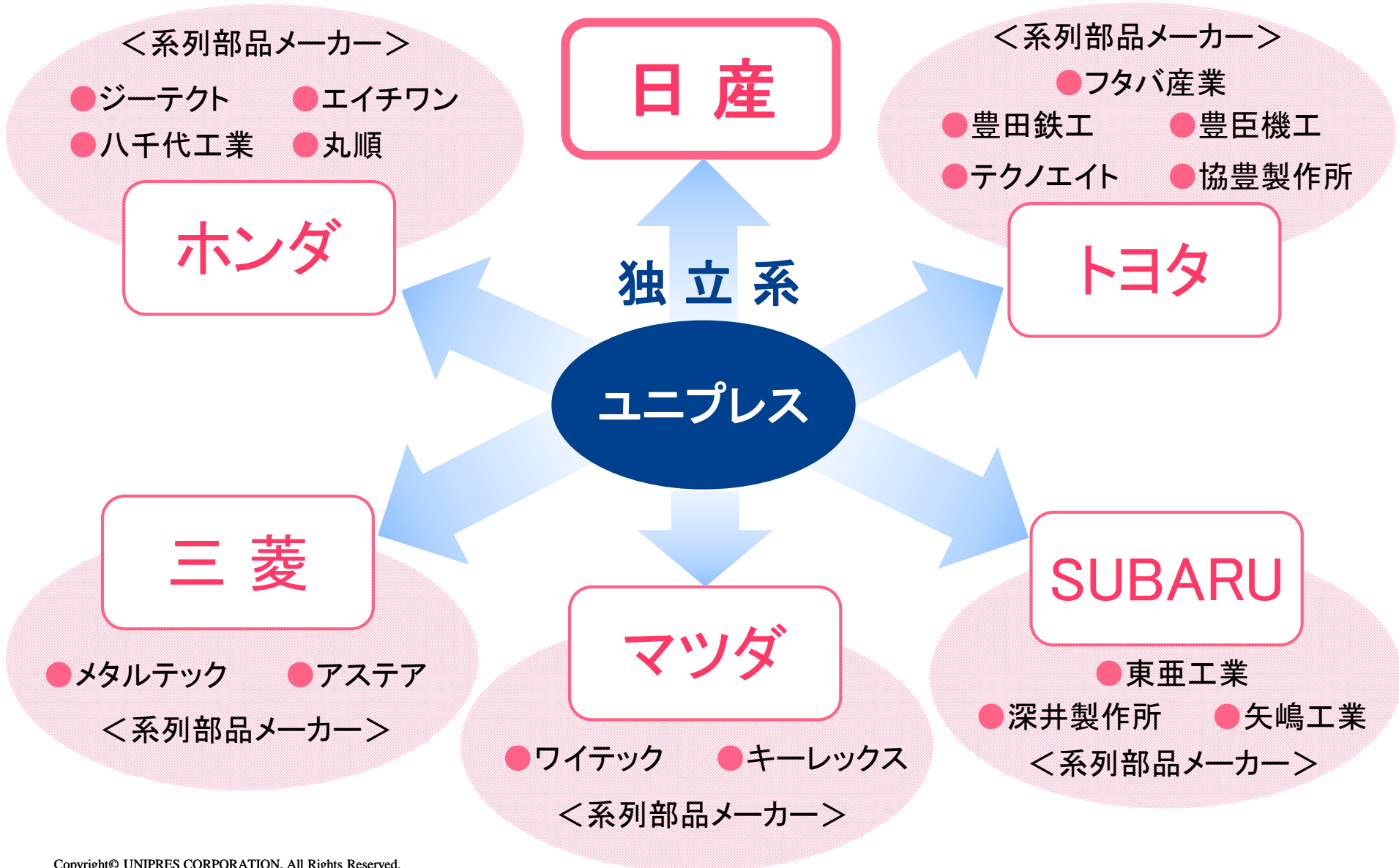
「日産リーフ」
バッテリーケース

【バッテリーケース売上計画】





3) 新規拡販の推進



ホンダ

車体プレス製品・
トランスミッション用プレス製品・
樹脂プレス製品すべてに
おいて一番の拡販先

トヨタ

トランスミッション用
プレス製品の拡販を狙う
(納入先:アイシンAW)

三菱

日産との共通プラット
フォーム車を中心に
新規拡販を狙う

SUBARU

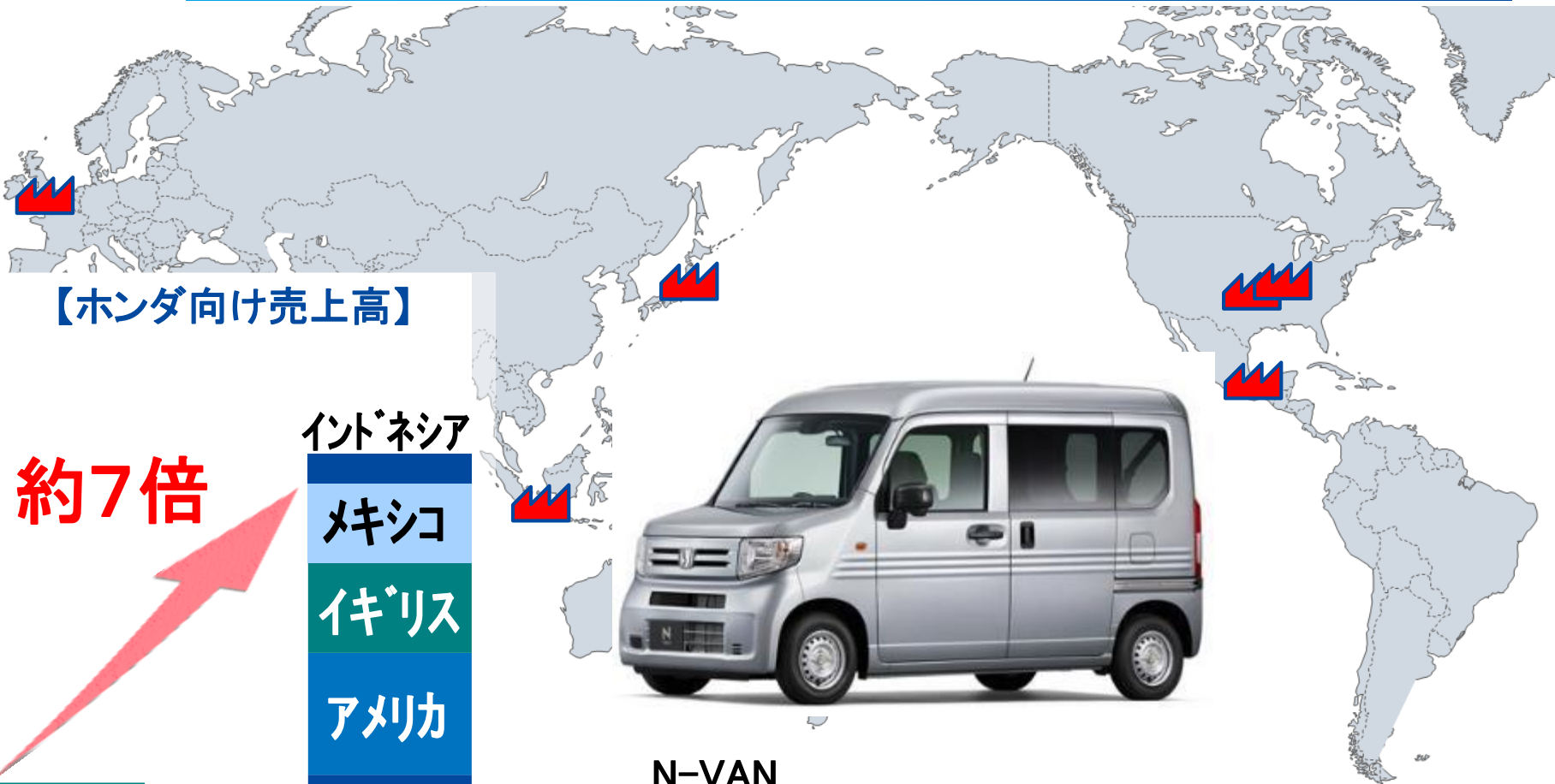
トランスミッション用
プレス製品を
中心に拡販

マツダ

車体プレス製品・
樹脂プレス製品を
中心に拡販

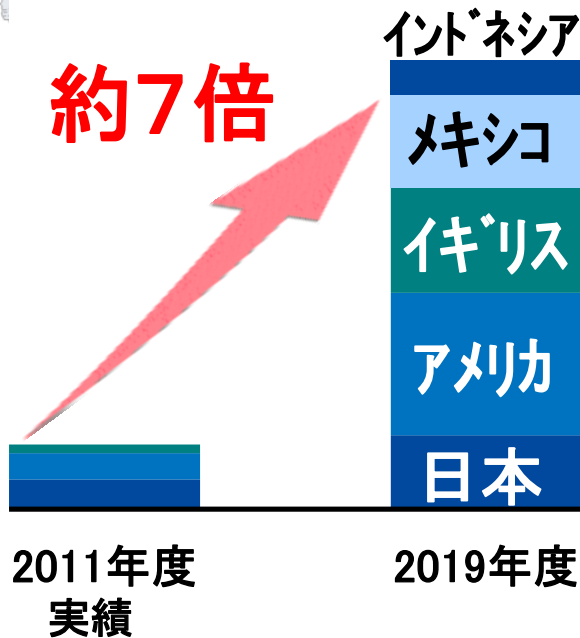


ホンダ車の受注状況／拡販戦略



【ホンダ向け売上高】

約7倍

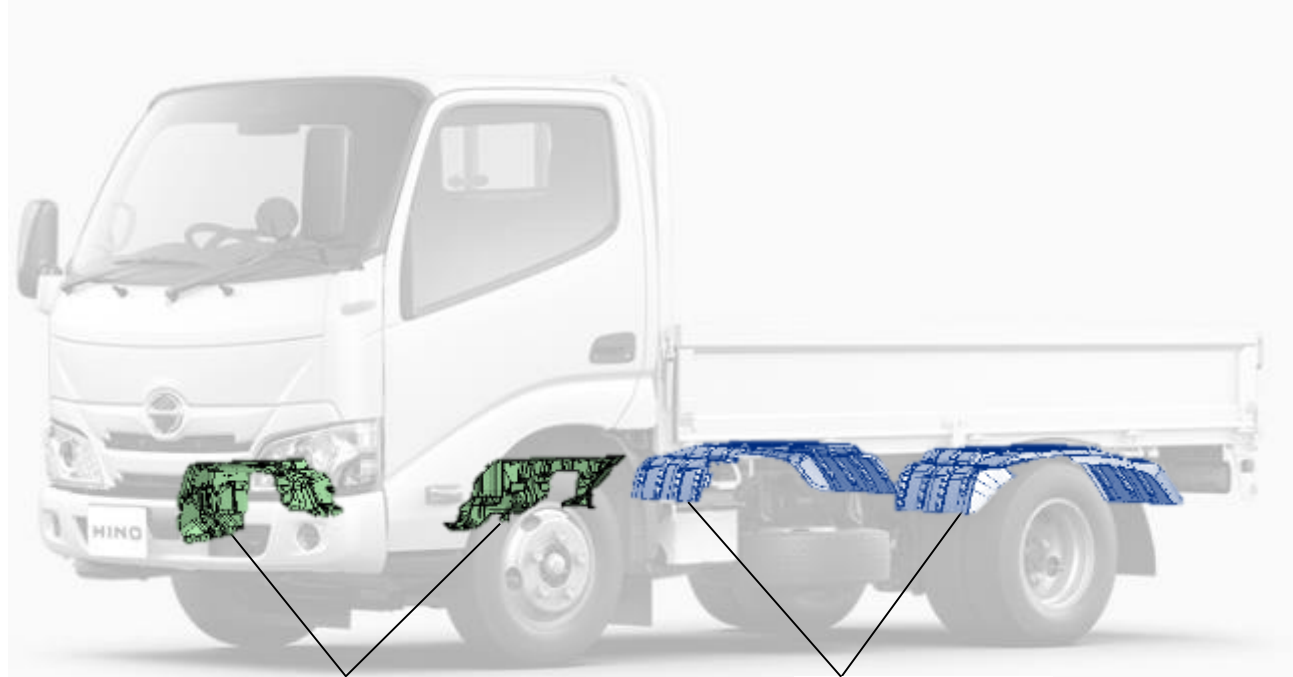


N-VAN

・ホットスタンプ部品を中心に、グローバルで受注拡大を狙う

- ・日野自動車から、「デュトロ」向け樹脂部品を新規受注
- ・ユニプレスとして日野自動車より初受注
- ・2019年5月生産開始

●受注部位



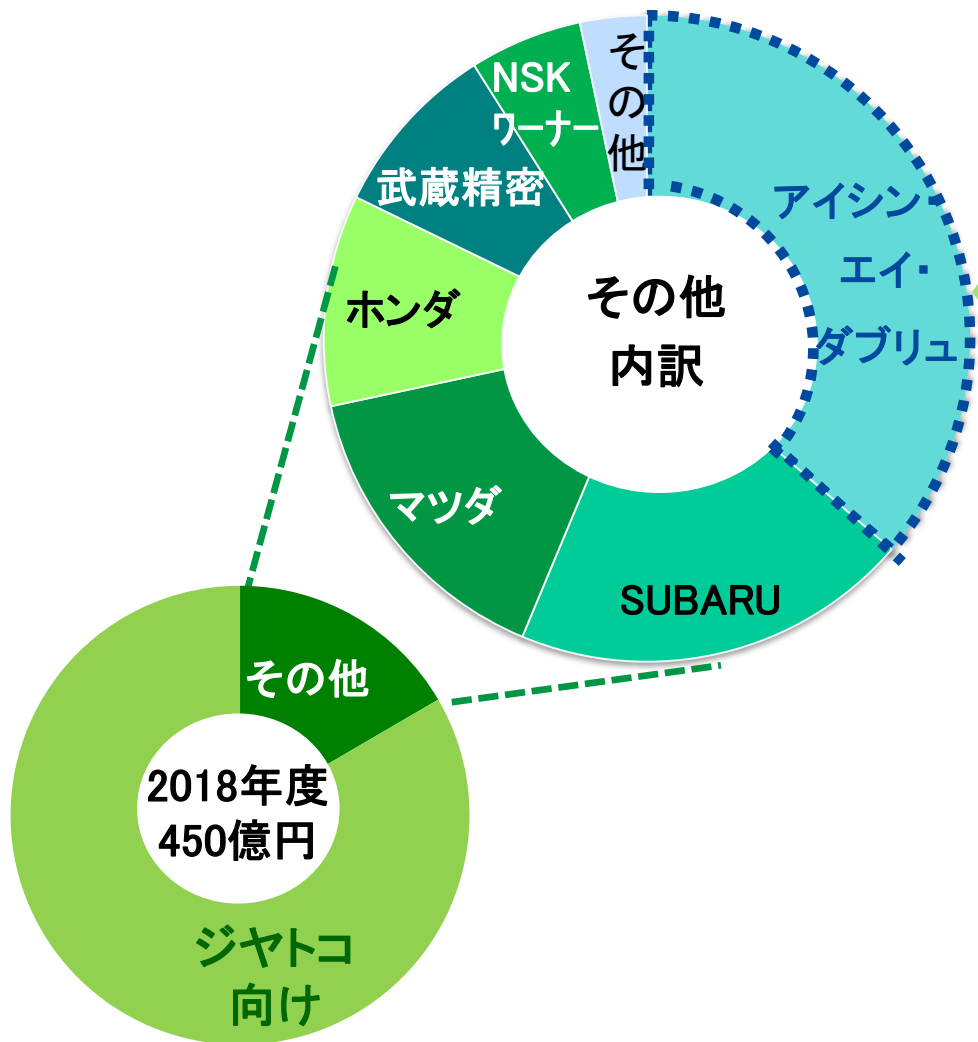
エンジンサイドカバー

フロアーサイドフェンダー

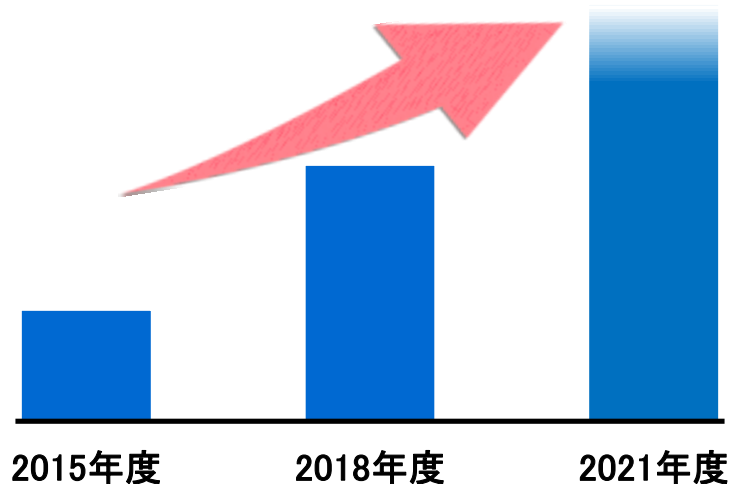
- ・積極的な技術提案により、継続的な受注を目指す



トランスミッション部品事業の受注状況／拡販戦略



アイシン・エイ・ダブリュ向け グローバル売上



アイシン・エイ・ダブリュより、 サブアッセンブリー部品を初受注



ピストンサブアッシー



シリンダーサブアッシー



『オートモーティブ ワールド2019』出展

クルマの先端技術分野において世界最大の展示会である
「オートモーティブ ワールド」に2年連続出展。
カーメーカーを中心とした来場者に当社技術を積極的にPR



【オートモーティブワールド2019】
会期:2019年1月16日~18日
会場:東京ビッグサイト

＜来場者からの反響例＞

- ・高成形性980Mpa材部品
- ・ホットスタンプ部品
- ・バッテリーケース(小ピッチ溶接)
- ・樹脂製バッテリーケース上蓋
- ・トランスミッション部品



3. 中期経営戦略

【経営理念】

「プレスを究めて、プレスを越える」

■ 目指すべき企業の姿

1. 市場ニーズを先取りした技術開発型企业
2. 競争力No.1を維持するコスト開発型企业
3. 自動車産業構造変化に対応したグローバル戦略企業

■ 中期経営方針

グローバルNo.1企業をめざし、UPS活動の推進により収益力と競争力を強化する。

※UPS活動(Unipres Production System)

全ての仕事の“ムダ”を発見し、仕事の仕組みを改革することで「収益力」「競争力」のある体質を作り上げる経営改革活動



経営の重要な4つの課題と取り組み

1. グローバルな生産基盤の活用・強化

■ビジネスの拡大

- グローバル拡販（ルノー・三菱・ホンダ）
- 自動車産業変革への対応

■9カ国16拠点

- 生産基盤の更なる強化

2. 技術開発の推進

■新製品・新技術の開発

- 超ハイテン／ホットスタンプ／アルミ化
対応技術
- 電動化対応技術
- 生産技術革新

■外部との共同研究拡充

- 高炉メーカー、自動車メーカー

3. 業界トップレベルの競争力

■コスト競争力強化

- UPS活動の更なる向上
- 15KPI ※Key Performance Indicator

■品質の向上

- 自動化の推進／AIの応用

4. SDGs課題を意識したCSRの取り組み

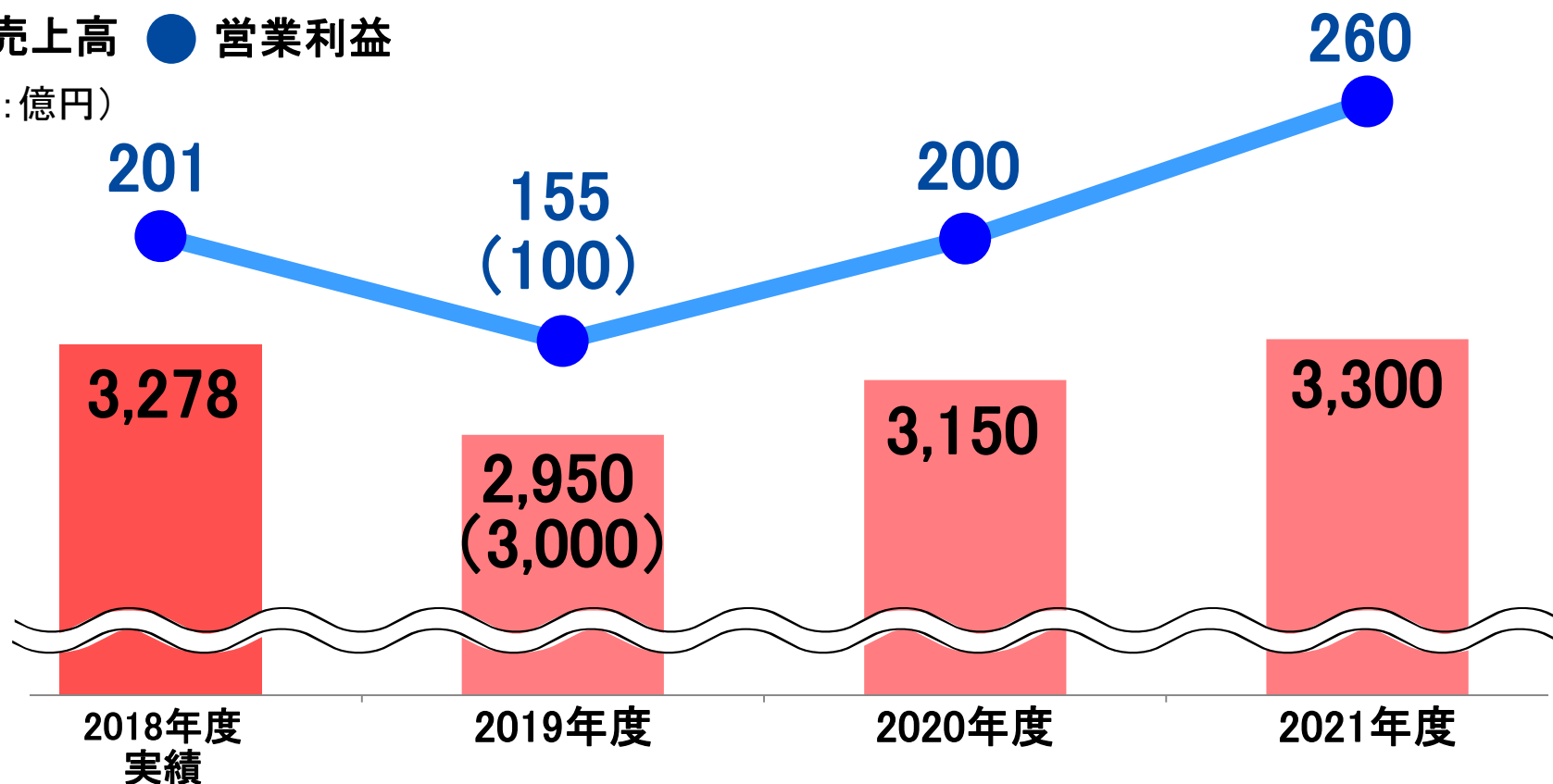


中期経営目標

- 売上高 … 着実な成長
- 営業利益 … 売上高営業利益率8%

■ 売上高 ● 営業利益

(単位: 億円)

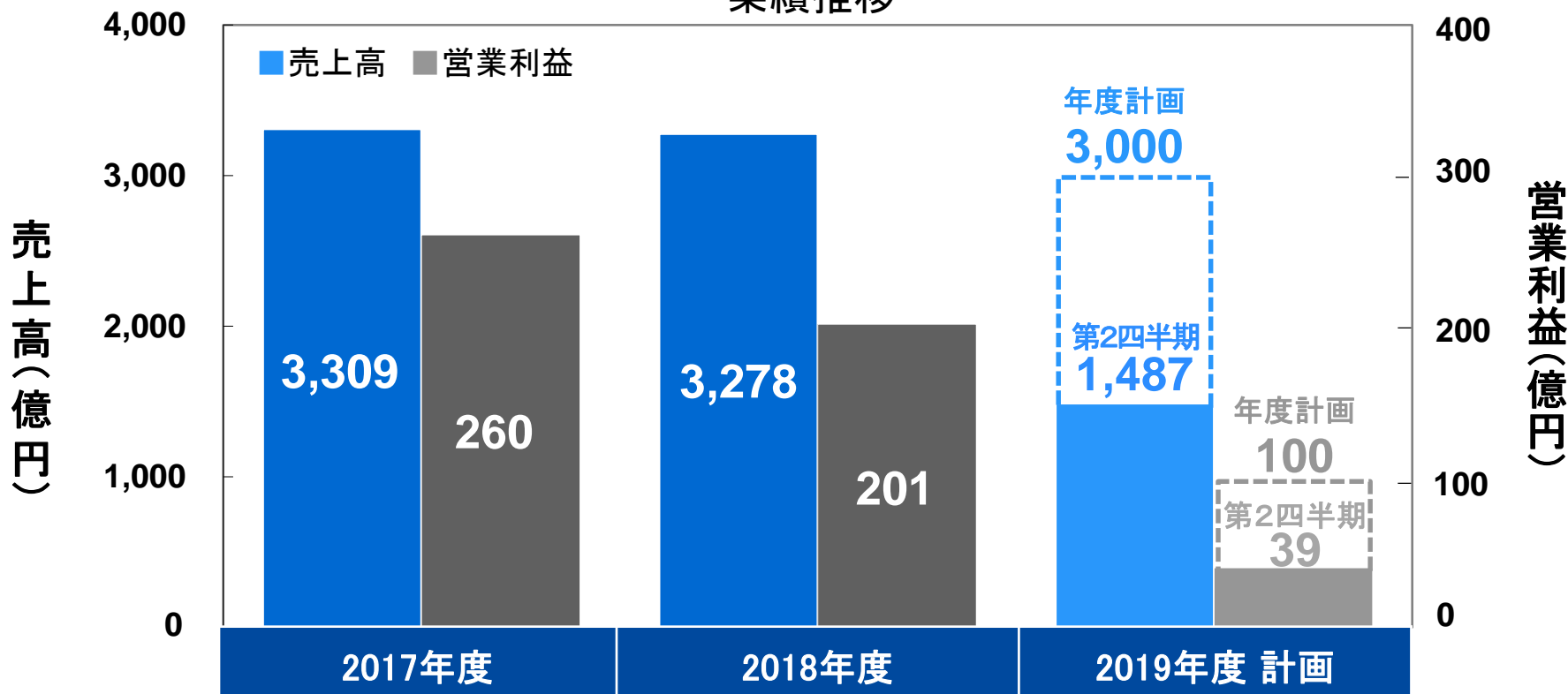


※2019年度()内は、連結業績予想の修正後の数値



2019年度連結業績計画

業績推移



	2017年度	2018年度	2019年度 計画
売上高	3,309	3,278	3,000
営業利益	260	201	100
経常利益	264	210	100
親会社株主に帰属する当期純利益	159	129	55

※2019年11月5日に2019年度通期の連結業績予想を修正



自己株式取得

2019年5月15日～8月27日に自己株式の取得を実施

自己株式の取得 実施内容

- 取得した株式の総額 2,986,900株
- 株式の取得価額の総額 4,999,970,900円

(5月14日開催の取締役会における決議事項)

- 取得株式の総数 上限320万株
- 取得価額の総額 上限50億円

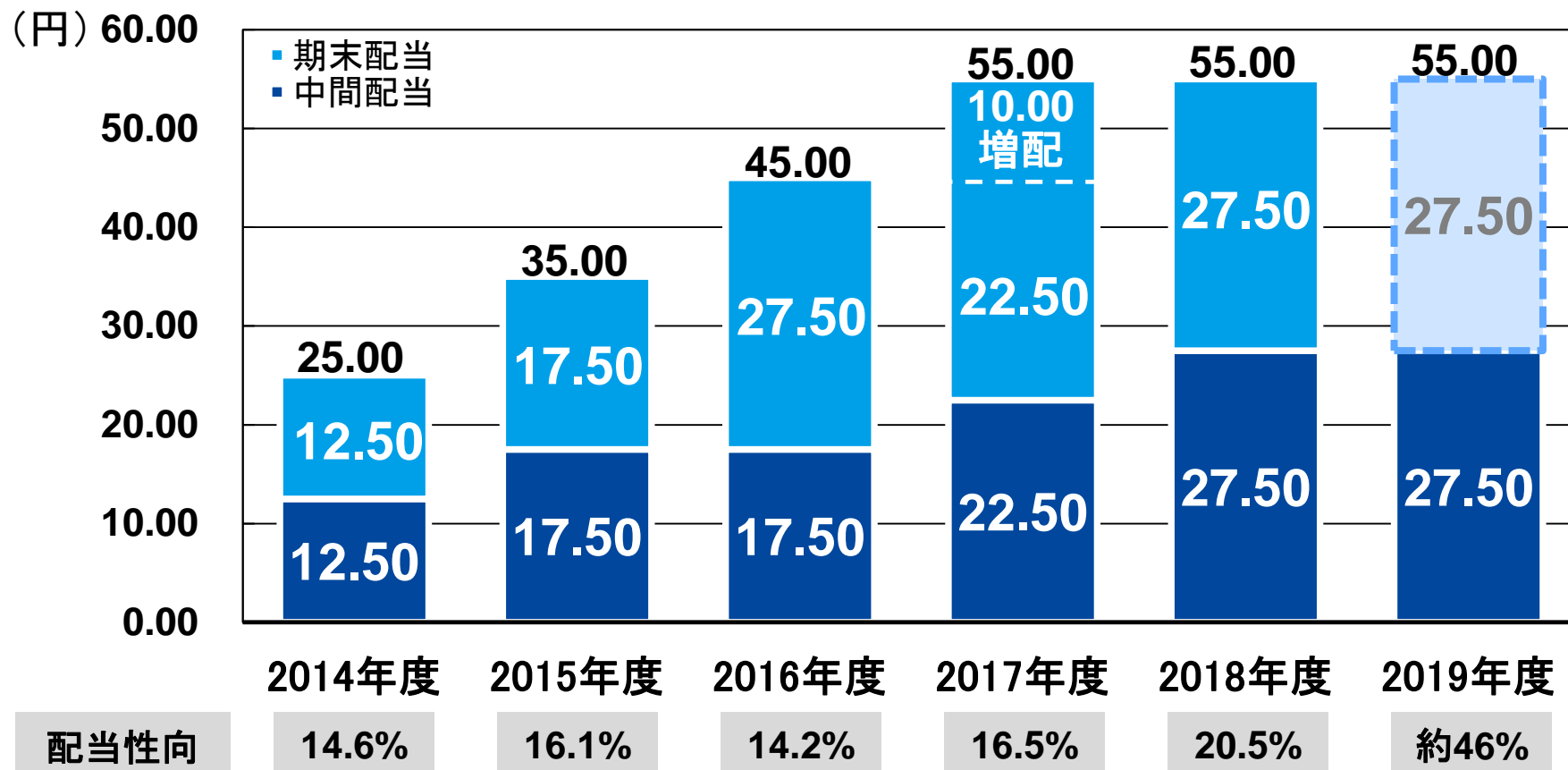


自己株式取得は今後も状況をみながら継続的に検討



配当金推移

業績の下方修正はするものの、従来からの方針を堅持し、
2019年度は一株55円を維持する計画





4. 株主還元



ポイント制 株主優待サービス

- 株主様に中長期的に当社株式を保有いただくため、長期保有優遇の株主優待制度を継続実施

長期保有するほどポイントが増加！

株式数	期間	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上
	100株以上		1,000	2,000
1,000株以上		2,000	3,000	4,000
3,000株以上		3,000	4,000	5,000

・3月31日現在の株主名簿に記載された株主の皆様が対象

- ・ 保有株式数・期間に応じて、年1回ポイントを贈呈



選べる！バラエティ豊かな優待商品

株主優待商品過去実施例

QUOカード

社会貢献型QUOカード



このQUOカードの購入は社会の一歩として、日本最大規模の社会貢献型QUOカードの発行に貢献いたします。

ユニプレスオリジナルグッズ

靴ベラ&洋服ブラシセット



食品・雑貨など数十点



環境・社会貢献活動団体への寄付



- ・more treesへ寄付
- ・交通遺児等育成基金へ寄付



- ・ポイントに応じて、オリジナルカタログから好きな商品が選べる



定時株主総会



株主総会
日時：2019年6月20日（木）
場所：新横浜プリンスホテル



株主総会にご出席
いただいた株主様へ
お土産もご用意！

※株主懇親会及びお土産は次回以降の実施については未定です。

- ・ 総会後は役員との株主懇親会を開催



JPX-NIKKEI Mid Small

- 初年度から「**JPX日経中小型株指数**」の構成銘柄に選定（2017年3月13日～）

JPX日経中小型株指数（略称：JPX日経中小型）

東京証券取引所、日本経済新聞社が共同で開発した、「投資家にとって投資魅力の高い」中小型株で構成する新しい株価指数（構成数は200銘柄）



UNIPRES

設立	1945年3月1日 【1998年4月1日山川工業(株)・大和工業(株)合併】
事業内容	自動車部品の製造及び販売
資本金	101億3,633万8,450円 (2019年3月31日現在)
売上高(連結)	3,278億円 (2019年3月期)
上場取引所	東証第一部 【証券コード:5949】
従業員数(連結)	9,962人 (2019年3月31日現在)
本社所在地	神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20



SDGs課題を意識したCSRの取り組み

参考資料

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2015年に国連で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)は、2030年までに達成すべき世界人類共通の目標であり、SDGs達成に向けた企業の役割はますます大きくなっております。

当社では、技術や製品、その他様々な事業活動を通じて、SDGs課題を意識しながら、CSRの取り組みを推進しております。

<当社取り組み例>

環境

- ・「ユニプレスグリーン調達ガイドライン」の展開
- ・コージェネレーションシステムの導入や加温設備のヒートポンプ化
- ・モーダルシフト、物流改善によるCO₂削減
- ・太陽光発電システム導入による再生可能エネルギーの導入
- ・車体軽量化による低炭素社会への貢献

社会

- ・近隣小学校や従業員家族向け工場見学会
- ・株主優待サービスを通じての寄付活動
 - 「交通遺児等育成基金」
 - 「more trees」
 - 「キッズスマイルQUOカード」
- ・各種イベント等への協賛
 - 「トリコロールクラブ」
 - 「ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド」

ガバナンス

- ・コンプライアンスの強化
 - コンプライアンス自己点検を実施
 - 内部通報制度を設置
- ・ガバナンスの強化
 - 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社への移行
- ・リスクマネジメント
 - 情報セキュリティの体制の構築
 - BCM訓練の実施

ユニプレスの主要な事業

車体プレス部品

自動車の基本性能を左右する重要な車体構造部品を提供し、すべての車体構造部品をシステムとしてとらえた最適構造の提案と、ハイテン材の適用拡大などにより、車体の軽量化と安全性の両立を図っています。



＜主な製品＞
フロントフォーム部品、車体骨格部品、ボンリンケン骨格部品、シャーシ部品、プレス用金型、溶接用器具、治具

トランスミッション部品

世界トップクラスの性能を誇るトランスミッション用構造部品を提供し、狭小空間の JPF (Japan Fine Press) 工場を駆使し、構造部品のプレス化を促し、高強度・軽量化・耐久性等を高次元化するニーズに対応しています。



＜主な製品＞
オートマチックトランスミッション部品、エンジン部品、自動車トランスファー部品、プレス用金型、溶接用器具、治具

樹脂部品

強度や耐久性が求められる車体部品品の提供

ユニプレスの経営理念

『プレスを究めて、プレスを越える』

業界的には、技術を追求させ、応用し、革新を促して世界に通用する自動車用の部品を目指す。業界的には、この発展と責任に併し、誠実とつくし、常にその成長を推進する。

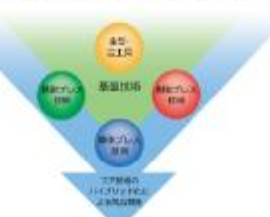
＜ユニプレスの目指す姿＞

1. 中核コアを軸とし、9社展開型企業
2. 競争力 No.1 を維持するコスト競争型企業
3. 自動車産業の構造変化に対応したグローバル展開型企業

ユニプレスのミッション

人と地球の未来を守る。それがユニプレスのめざす技術です。

人と社会になくてはならないクルマに、今、大きな転機が訪れています。クルマを構成する部品の軽量化を推進することで燃費を向上させ、地球温暖化の抑制の一つとされる CO₂ の排出を削減し、さらに安全性が求められています。ユニプレスは、自動車用プレス部品の総合メーカーとして、さまざまな技術課題を達成してクルマづくりを支えています。そして、今、高度なプレス技術を開発して、安全性と環境性能を兼ね備えた次世代のクルマづくりに取り組んでいます。地球環境と向き合い、世界中の人々に貢献を続けるクルマメーカーとして、ユニプレスは成長を続けていきます。



安全性向上 × 環境社会への貢献

高品質の提供、顧客へのサービス向上、環境への貢献



ユニプレス CSR レポート 2019

UNIPRES CSR Report 2019

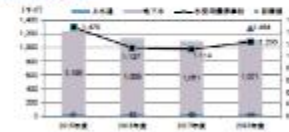
ユニプレス株式会社

＜生産数量の増加＞

水素産業の成長に加え、新車に盛り込まれています。2019年度生産総量に換算した1%の成長を記録し、当業種ではほぼ同等の増産実績、当社の成長戦略に貢献しています。

上記の取り組みに加え、薄肉化・軽量化を進めることで、水素罐の重量を減らし燃費向上を行っています。燃費の改善、目標値に対して、15.4%の改善を達成することができました。

【水素罐生産量の増加】



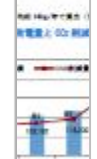
＜再生可能エネルギーの導入＞

温室効果ガスの排出削減の一環として、太陽光発電の導入を進めています。富士工場、富士工場（富士）、富士工場（富士）、富士工場（山梨）、富士工場（長野）に太陽光発電システムを設置し、発電量を拡大しています。

例えば、富士工場（長野）では車検場で使用する電力をほぼ賄っています。また、社員の電気自動車への充電が



しています。
184,438kWhに達し、社内で全てを年間約50kWhの電力消費（平均）して年間約32kWhの利益が



◆ボランティア活動「Team Honda Bank of Service」に参加

【ユニプレスアラバマ会社】
北米ホンダグループのサブライザー、顧客などによる地域貢献活動である「Team Honda Bank of Service」に参加しました。当社からは14名が参加し、会社のある市内の学校の選手や生徒のイベントをサポートして行いました。



◆クリスマスの寄付活動

【ユニプレスアラバマ会社】
毎年、クリスマスシーズンに様々な寄付活動を行っています。その中でも「Don Food Drives」と呼ばれる食品の寄付を推進する活動では、多くの社員が参加などを待ちました。また、この活動は会社のあるアラバマ州に寄付され、食料収入の少ない家庭などに配られます。



◆家族交流の促進機会を提供

【ユニプレスメキシコ会社】
メキシコのトランスミッション部品工場では、社員の出退勤の時間を柔軟に調整する目的で、従業員が参加して協会の活動を開催しました。社員は家族や子供と一緒に参加して遊園地を回り、参加した家族からも好評で、社員の働くモチベーションにつながりました。



◆Training Academyで技術習得の機会

【ユニプレスイギリス会社】
2017年にTraining Academyを創設し、将来、自動車分野の技術者を育成する目的で、年間に50名の研修生を受け入れています。この研修は、専門的な知識を身に付けるだけでなく、実際に生産現場で学ぶことのできる実践的なプログラムとなっています。



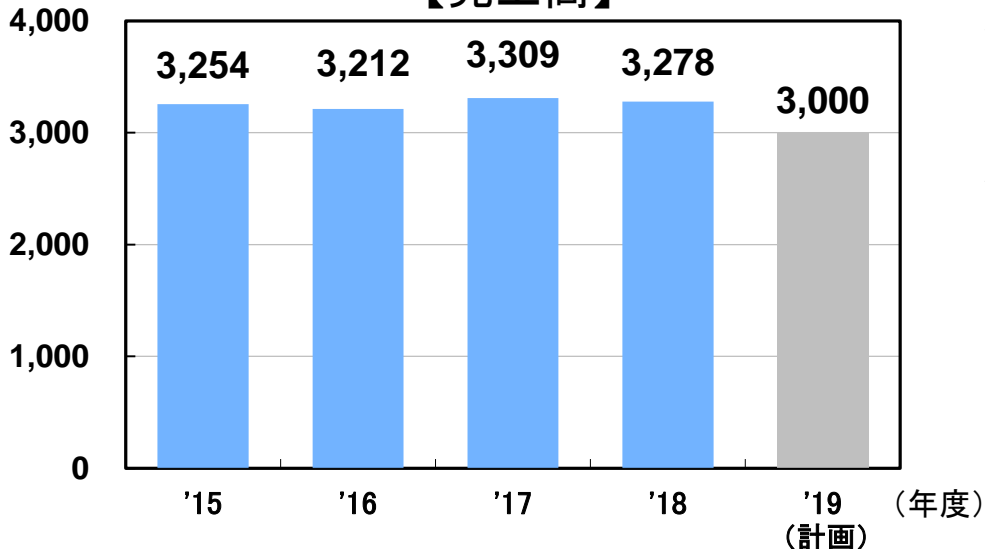


主要業績推移

参考資料

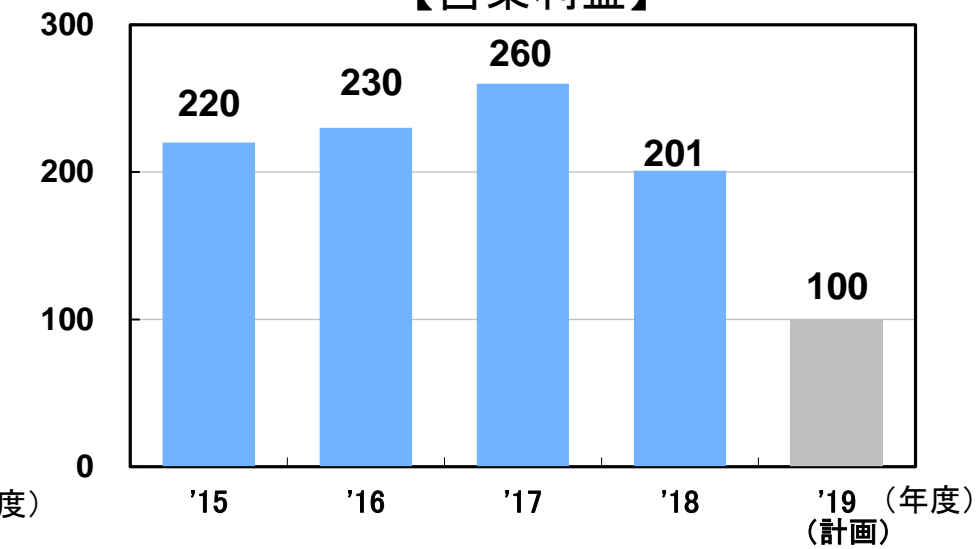
(億円)

【売上高】



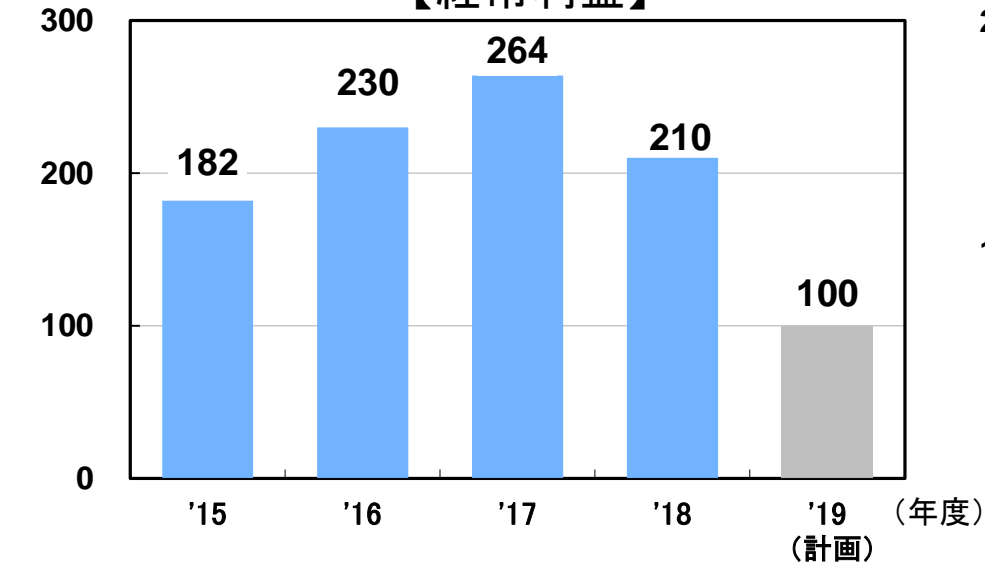
(億円)

【営業利益】



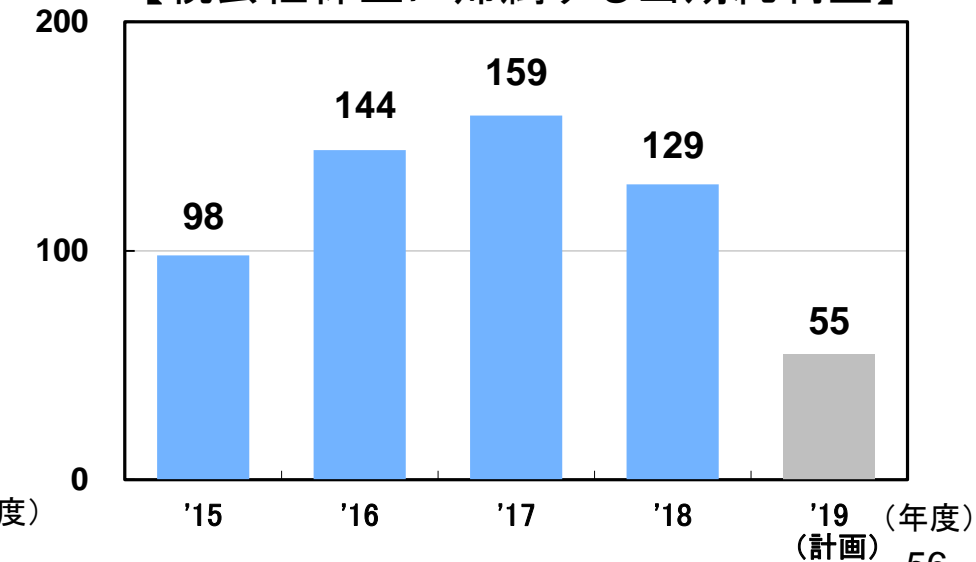
(億円)

【経常利益】



(億円)

【親会社株主に帰属する当期純利益】





UNIPRES

財務ハイライト

参考資料

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高(百万円)	308,739	325,423	321,168	330,890	327,794
営業利益(百万円)	17,796	22,033	23,025	26,047	20,124
経常利益(百万円)	18,363	18,186	23,034	26,447	20,992
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	7,207	9,750	14,379	15,949	12,872
1株当たり当期純利益(円)	170.89	217.81	315.89	333.55	268.79
1株当たり配当金(円)	25.00	35.00	45.00	55.00	55.00
総資産(百万円)	238,356	233,274	241,052	246,779	251,185
純資産(百万円)	121,375	129,253	135,320	154,678	161,511
自己資本比率(%)	47.5	51.6	52.5	58.5	59.9
1株当たり純資産(円)	2,681.93	2,674.58	2,648.03	3,016.02	3,140.76
有利子負債残高(百万円)	42,777	30,333	22,445	13,143	13,149
営業活動による キャッシュフロー(百万円)	25,701	29,107	33,430	33,174	36,496
投資活動による キャッシュフロー(百万円)	△25,911	△18,613	△20,038	△22,917	△33,657
財務活動による キャッシュフロー(百万円)	3,392	△6,449	△4,148	△12,669	△4,524



主な財務指標

参考資料

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
売上高営業利益率(%)	5.8	6.8	7.2	7.9	6.1
売上高経常利益率(%)	5.9	5.6	7.2	8.0	6.4
総資産経常利益率 (ROA)(%)	8.2	7.7	9.7	10.8	8.4
自己資本当期純利益率 (ROE)(%)	6.7	8.3	11.6	11.8	8.7
EBITDA(百万円)	37,989	36,975	42,035	45,635	39,868
売上高EBITDA率(%)	12.3	11.4	13.1	13.8	12.2
EV/EBITDA倍率(倍)	3.2	2.5	2.3	2.1	1.6
配当性向(%)	14.6	16.1	14.2	16.5	20.5
純資産配当率(%)	1.0	1.3	1.7	1.9	1.8
配当利回り(%)	1.0	1.8	1.9	2.3	3.2
PER(倍)	14.3	9.0	7.3	7.2	6.4
PBR(倍)	0.91	0.73	0.88	0.80	0.55
総資産回転率(回)	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3



前提為替レート

参考資料

(円)

	2017年度 通期		2018年度 通期		2019年度 計画前提	
	期中平均	期末	期中平均	期末	当初	下期
米ドル	110.71	106.27	111.07	111.01	110.00	105.00
英ポンド	145.37	152.02	146.80	140.35	145.00	129.00
ユーロ	127.19	134.95	130.00	126.88	124.00	117.00
ペソ	5.95	5.74	5.75	5.64	5.70	5.20
人民元	16.63	17.30	16.64	16.14	16.20	14.50
ルピー	1.72	1.63	1.59	1.61	1.50	1.50
バーツ	3.32	3.46	3.41	3.41	3.45	3.45
ルピア	0.0084	0.0083	0.0077	0.0076	0.0075	0.0075



株価の推移

参考資料

株価(円)



本日の株価 _____ 円

資料取り扱い上の注意

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で当社が知りうる情報をもとに作成されたものです。
あくまでも現時点での将来予想であり、リスクや不確定要素を含んでいるため、実際の業績はかかる予想と大きく異なる結果となることがあります。
それらのリスクや不確定要素のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- 主要市場(日本、米州、欧州、アジア等)の経済状況、消費動向、及び自動車業界得意先メーカー各社の業況・戦略等に伴う製品需給の急激な変動
- 原油価格や鋼材価格の高騰に伴う当社製品製造コストへの影響
- 為替相場の大幅な変動
- 金融・資本市場における金利等の変動 など